ふるさとファイル

展示コーナーだより
第 28 号
平成 18 年 10 月
生涯学習課文化財係

御一新と長岡
～井ノ内村石田帯刀の活躍～

展示期間
平成 18 年 10 月 4 日(水)～12 月 27 日(水)
※11 月 14 日(火)から、一部展示替えを致します。

幕末･維新といえば、皆さんは何を思い浮かべますか？江戸時代から明治へ移る当時の動乱に関わったのは、坂本竜馬や新撰組など、今日の私たちにお馴染みの人々だけではありませんでした。
天皇家や公家の領地が多かったこの長岡京市域の人々にとって、この頃の動乱は他人事ではなく、決して裕福とはいえなかった当時の公家たちを、経済や労働の面で支えたのです。
今回はその中でも、天皇権威の回復や開国反対に積極的に行動した公家四条隆謌(たかうた)･隆平(たかとし)親子の家来として、幕末･維新の動乱に身を投じた石田帯刀(たてわき)の活躍を、同家に残る資料をもとに紹介します。

四条家と石田帯刀(たてわき)

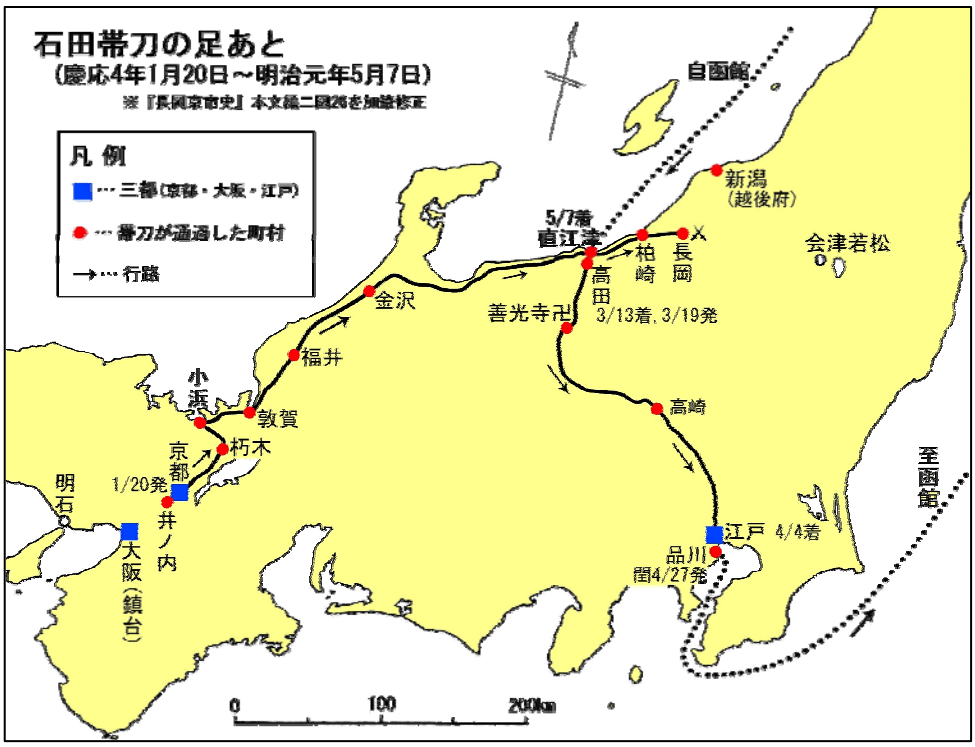
石田家は代々瀬兵衛を名乗り、井ノ内村の公家四条･伏原両家領内の庄屋を勤めていました。安政 5(1858)年 11 月、瀬兵衛の息子富太郎は、四条家より「御賄向雑掌取締」に任命され、「帯刀」と名乗り、同家の財政面を主に担当することになります。

嘉永 6(1853)年には、浦賀沖にペリーの黒船がやって来るなど、当時、江戸幕府支配の世の中に動揺が広がっていました。帯刀の仕えた四条隆謌は、文久 3(1863)年 8 月、長州藩などと同じく尊王攘夷の思想を持つ三条実美(さねとみ)ら 6 人の公家とともに京都を追われ、長州に下向しています(七卿落ち)。帯刀は同行することを主人に願い出ますが、邸内整理のため京都残留を命ぜられています。帯刀は、隆謌が御所への参内を許されるまでの間、京都の街を徘徊し、討幕派(勤王派)へ情報を流していたようです。当時の勤王家は「常々軍用金ニ窮シタル」状態で、そんな勤王家たち、特に主人である四条家を、「自己ノ財産を担保トシ、資金借入」を行い、病気で職を辞すまで支え続けたのです。

御賄向雑掌取締任命書　(安政 5 年 11 月)　　※今回は、展示致しません
この時、帯刀 19 歳。以後、十数年余り、四条家を支え続けたのです。

北越戦争と帯刀（たてわき）

慶応 4(1868)年 1 月 3 日の鳥羽・伏見の戦いで勝利を収めた新政府は、山陰・東海・東山・北陸の諸道や九州・四国・中国など各地方に鎮撫（ちんぶ）総督を任命し、薩長などの諸藩兵をつけて派遣しました。



帯刀の主人四条隆平は、同年 1 月 5 日に北陸道鎮撫総督府副総督に任命され、総督府一行は雪深い北越へ向け出発します。帯刀も、郷里で 2000 両もの大金を集め、従者 3 名を率い北越へ向かっています。しかし、到着して間もない 3 月 19 日、江戸総攻撃の命が届き、新政府に対して曖昧な態度をとる北越諸藩を残したまま、総督府一行は全軍を率いて江戸へ出立することになります。それにより、柏崎は桑名・会津などの旧幕軍の一拠点となり、閏 4 月、総督軍は北越再攻のために江戸を発つことになります。出立を前にした 27 日、帯刀らは品川で宴会を催しています。

かくして、江戸を発った総督府一行は苦難の末、8 月中旬、北越戦争を終結させます。同年 5 月 29 日には、新政府は越後直轄支配として越後府（民政担当機関）を設置します。帯刀は、7 月に越後府知事となった隆平の執事を勤め、同年 10 月に隆平が解任されるまで、周辺の柏崎・水原などにいた越後府権判事らとの連絡を取り持ち、また越後府における財政部分を担ったのです。

品川駅湊屋楼上離盃之図
（慶応 4 年閏 4 月 27 日）

北越再攻のため、江戸を出立するにあたって、帯刀らは品川にて宴会を開いています。円座の奥に「石田」と書き添えられた人物が座っています。

石田まさ書状　（明治元年カ）

帯刀の後妻まさが、戦地にいる帯刀に宛てて送った書状。夫のいない家を支える妻の苦労が偲ばれます。

≪語句説明≫

尊王攘夷運動

もともと、天皇を崇拝する思想（尊王論）と外国撃退の思想（攘夷論）は個別の思想でしたが、幕藩体制の矛盾の激化と外圧のために両者は結びつき、幕末政治運動の大きな潮流となりました。

鳥羽伏見の戦い

慶応 3 年末、大政奉還・王政復古の後、小御所会議は 15 代将軍の領地没収などを決定。これにより、鳥羽・伏見において引き起こされた討幕派と旧幕軍の戦い。北越戦争も含む諸戦の発端となりました。